



C O N T E N T S

- 2 院長挨拶（年度初めの挨拶）
- 3 看護介護部からのお知らせ
- 4 リハビリテーション科からのお知らせ
- 5 栄養管理科からのお知らせ／令和2年度 学会発表のご報告
- 6 地域連携室からのお知らせ
- 7 診療実績のご報告

基本理念 皆さまの健康で豊かな生活を支えるために、信頼される真心のサービスを提供します。

- 基本方針**
- 1、社会的役割・・・信頼される医療サービスを提供し、地域住民の健康で豊かな生活に貢献します。
 - 2、利用者さまの尊厳と権利の尊重・・・利用される方々の尊厳と権利を尊重した医療サービスを提供します。
 - 3、快適な環境・・・希望をもって豊かな生活を送ることができる環境づくりをめざします。
 - 4、チーム医療・・・全人的・総合的最善の医療サービスを提供する為に「チーム医療」を実践します。
 - 5、豊かな専門性・・・スタッフの人格形成はもとより、高度な専門知識の習得や技術の向上に努めます。

「新年度のご挨拶」

悠紀会病院 院長 古森 顕一



早くも令和3年度がスタートしました。

ちょうど1年前のこの時期、日本では新型コロナウイルス感染症に伴う「緊急事態宣言」が全国に発令され、それまで当たり前だった花見も歓送迎会も一切できず、学校では卒業式や入学式も大きく形を変えざるを得ない状況でした。全国で感染者が増えていくニュースを見ながら不安な時を過ごしていたことを思い出します。

あれから1年が経過し、今ではワクチン接種も始まるなど、明るい兆しが出てきたことも確かです。改めてこれまで最前線で対応されてきた医療従事者や献身的に感染拡大を防ぐために尽力されてきた皆様へ感謝と敬意を申し上げたいと思います。

さて、新しい年度と共に、ここ玉名地域でも大きな動きがありました。公立玉名中央病院と玉名地域保健医療センターが統合され「くまもと県北病院」が誕生しました。ベッド数402床の県内でも有数の規模を持つ総合病院となります。玉名地域のみならず、県北全体の急性期治療、高度医療の更なる発展に期待しております。

また、当院におきましては、長年にわたり玉名地域保健医療センターで神経内科の診療を担ってこられた井手正美医師が4月1日より着任されました。これまでの豊富な診療経験を生かしていただき、当院が担う慢性期医療の更なる充実を目指してまいります。

最後に、新型コロナウイルス感染症の収束にはまだまだ気が抜けない状況ですが、患者様やご家族様の笑顔や安心が少しでも増えることを願って、これからも職員一同努力を続けてまいります。

今後も引き続きよろしく願いいたします。

■ 着任のご挨拶



井手 正美 (Masami Ide)

この度、当院に勤務することになりました井手正美です。

10年前より玉名地域保健医療センターにお世話になり、玉名は働きやすい所だと思っていました矢先、当院からお誘いがありました。この歳になってお誘いいただいたことに感謝しています。医療センターも閉院となる節目の年でもあり、心を新たにしております。

玉名郡市医師会の先生方や病院関係者のこれまでの御恩に報いるためにも、「一隅を照らす」の信条で精一杯尽力したいと思います。今後どうぞよろしく願い致します。

<主な経歴>

昭和 55 年 鹿児島大学医学部卒業
昭和 55 年 鹿児島大学医学部第三内科入局
昭和 57 年 熊本大学医学部第一内科入局
昭和 59 年～ 63 年 熊本大学医学部大学院
昭和 63 年～平成 19 年 山鹿市立病院
平成 19 年～ 23 年 山鹿中央病院
平成 23 年～玉名地域保健医療センター

<資格など>

医学博士
日本内科学会認定医
日本神経学会専門医・指導医
認知症サポート医

<所属学会>

日本内科学会
日本神経学会
日本消化器内視鏡学会

外来のご紹介

- 診療日** 月曜日から金曜日(土・日・祝祭日は休診)
時間 9時から17時
体制 医師8名・看護師2名 ※詳しくは裏表紙をご参照ください。



当院の外来は、生活習慣病である高血圧症・高脂血症・糖尿病などの内科的疾患から、不整脈・心房細動・心不全等の循環器系疾患、この春からは神経内科の診療も再開しております。

そしてリハビリテーションにも積極的に取り組んでおり、脳卒中や骨折後のリハビリテーションによる機能の維持向上と共に、生活全般にも多職種協働で支援しています。外来全般としては、定期受診・外来リハビリ・訪問リハビリ・嚥下内視鏡検査(VE)・嚥下造影検査(VF)・職員検診・特定検診・予防接種等を行っており、患者様一人ひとりに応じた個別の外来ケアプランを立案し、定期的に評価修正しながら看護を行っています。また、それぞれに応じた在宅生活が継続できるように他職種との連携および関係機関との連携も密に行っています。

私たちが大切にしていること

- 患者様、一人ひとりの思いを感じ取ること。
- 専門的知識・技術、経験に基づいて判断すること。
- 優しさ、思いやり、気配りを添えて応えること。



地域に根ざした
病院を目指す!

地域活動のご報告

住み慣れた地域で
元気に暮らす
お手伝い!

当院では、地域の介護予防事業として開催されている「通いの場」にリハビリスタッフと介護病棟・介護医療院のスタッフを派遣しています。「通いの場」は、公民館での交流を通して地域の人同士が触れ合うことにより、社会的孤立の防止・生きがいづくり・閉じこもり予防・認知症予防・身体機能の向上につながることを目的として行われています。また、大切なことは地域の方が主体となることであり、各スタッフは年2回の体力測定実施や体操のリスク管理、レクリエーション指導、頭の体操等を一緒に行いながら、参加されている皆様が「住み慣れた場所で自分らしく暮らし続ける」「入院しなくていい体力づくり」に取り組めるようサポートしています。

【身長・体重】



【握力】



体力測定の様子

【片脚立ち】



【複合的歩行テスト】



体操の様子

「わき腹ストレッチ」
起き上がり・寝返りを
楽にできる体操です

新聞を使った レクリエーションの様子

落とした棒を拾うのも
日常生活に繋がる
大切な運動です



《参加者の声》

新聞を使ったレクリエーションで、
どれだけ長くひも状にできるか！を
実施後、最高齢のAさんが一番上手に
作られて拍手喝采となった際の一言。



Aさん

わー！人から
久しぶりに褒められた。
今日は良かったー！

健やか体操を
終えての一言。

Bさん



やっぱり体操はよかぬえ！
体のポカポカして
温まる！

地域のサポーターとして参加され、その日の活動を終えての一言。

「みんなが楽しく集まれるようにすることが大事で、
日々の活動内容に体操やレクリエーションを組み合
わせる工夫をしながら取り組んでいます。」

Cさん



栄養管理科

最近、新聞やニュースの中でよく聞くようになった「SDGs」皆さんはご存知でしょうか？



SDGsってなに？

SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、SDGs(エス・ディー・ジーズ)と呼ばれます。SDGsには17の目標があります。SDGsが掲げる17の目標は、いずれも社会が抱える課題であり、課題解決のためには各国政府だけでなく、地方自治体や企業、そして個人の行動に委ねられています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



栄養管理科ではSDGsを学び、「社会の課題に対して自分たちができる事は何か？」を考えながら、日々の業務に取り組みたいと考えています。

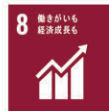
現在の栄養管理科での取り組み

低栄養対策とフードロスの削減



- **低栄養改善**
低栄養患者の栄養不良を解消し、栄養ニーズへの対応を行います。
- **フードロスの削減**
法人の病院・老人保健施設の食事を一括して調理する事で、食品ロスを最小限にしています。

ダイセントワークの推進



- **ワークライフバランス**
通常業務の見直しと改善を行い、平均残業時間5時間/月以内を達成しました。
- **有給取得率の向上**
業務改善する事で有休取得率60%を達成しました。今後は有給取得率80%を目指します。

【令和2年度 学会発表のご報告】

・2020年度 回復期リハビリテーション病棟協会 研究発表会

- 多職種介入により栄養状態とADLが向上した一例
悠紀会病院¹⁾ 南竹佳奈¹⁾ 入江真也¹⁾ 川口真和¹⁾ 谷澤きよ¹⁾ 松永桃子¹⁾ 山崎裕子¹⁾
- 回復期リハビリテーション病棟における高齢入院患者の摂食機能と体重の推移
悠紀会病院¹⁾ 国立長寿医療研究センター老年内科²⁾
古賀標志¹⁾ 南竹佳奈¹⁾ 前田圭介²⁾ 入江真也¹⁾ 古森顕一¹⁾ 紫藤忠博¹⁾

地域連携室からのお知らせ

～入院相談から入院当日の流れ～

当部門にはソーシャルワーカー(社会福祉士)と看護師を配置しており、相談内容に応じて、院内では多職種、地域においては各医療機関や介護サービス事業所等と連携を図っています。そこで今回は、地域連携室の入院相談から入院時の関わりを特集してご紹介します。

〈入院相談から入院までの関わりについて〉

① 入院に関する相談(電話相談)

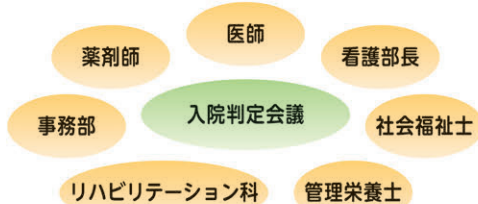
- 紹介元医療機関からの電話相談の中で、入院が可能であるか初期判断を行います。
 - 入院申し込み用紙、診療情報提供書等の提供を依頼させていただきます。
 - 今後、どのような生活を希望されているのか、患者様・ご家族様の意向確認を行わせていただきます。
- ※ 転院先の選定をされる中で、患者様・ご家族様より見学等を希望される場合はご相談ください。



② 入院判定会議

- 診療情報提供書等をもとに、平日朝9時より入院判定会議を実施します。
- 患者様の状態像について、当院での入院の是非と受け入れ病棟について検討させていただきます。

〔入院判定会参加メンバー〕



診療情報提供書の内容について社会福祉士より報告を行います。当院で入院・入所が可能であるのか検討を行います。



③ 入院判定会議の結果について紹介元に報告

- 入院が困難であった場合は、入院不可となった理由に加え、必要に応じて、どのような医療機関等であれば検討ができる可能性があるか助言を行わせていただきます。

④ 紹介元医療機関訪問

- 必要に応じて、当院への転院予定となっている患者様、ご家族様が不安を軽減し安心してご入院できるよう紹介元医療機関を訪問させていただきます。

⑤ 転院日調整

- 患者様に適切な部屋の準備が出来次第、転院調整、移送方法等を調整させていただきます。

〈入院当日の基本的な流れ〉

- ① 医師の診察 → 病状や状態の確認と共に、最終的な入院の判断が行われます。
- ② 入院時の諸説明 → 診療支援課より入院に関する手続きと各種説明が行われます。
- ③ 担当病棟の看護師・介護士等による入院時オリエンテーション → 入院生活に関する説明が行われます。
- ④ 地域連携室(ソーシャルワーカー・看護師)より初回面談を行います。

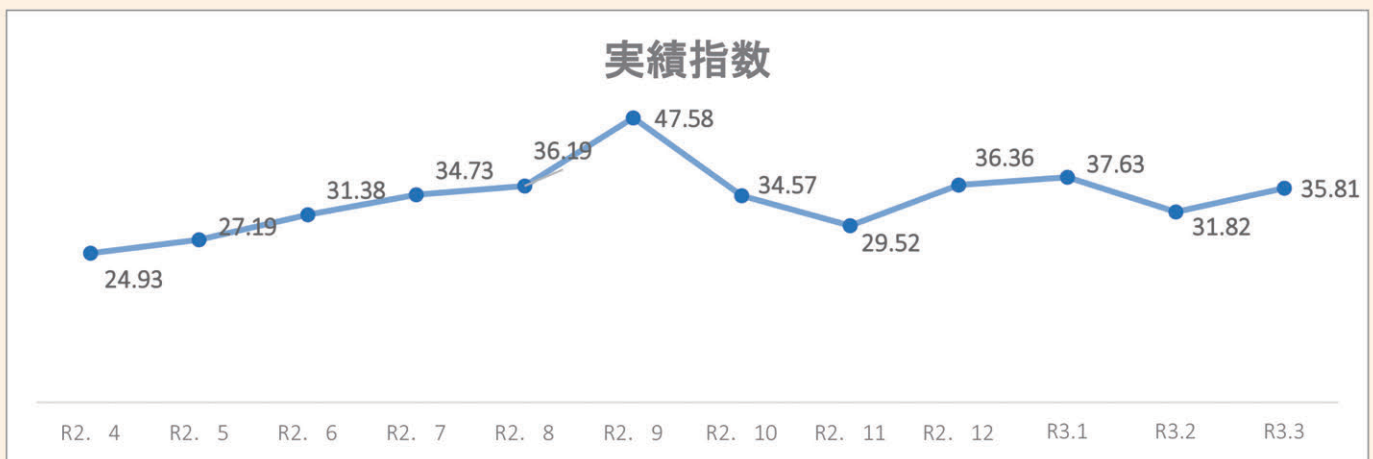
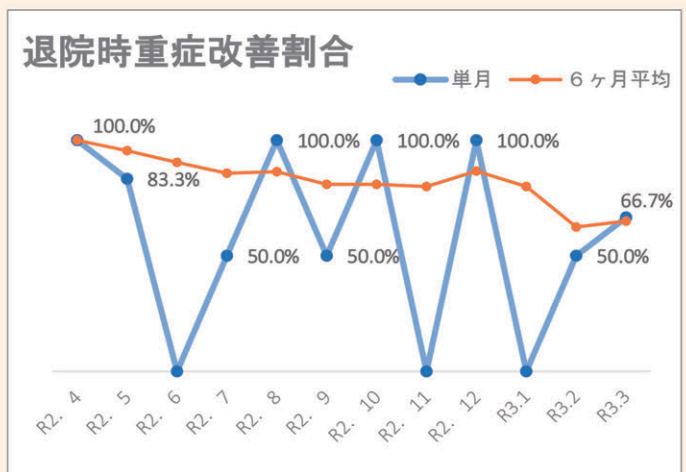
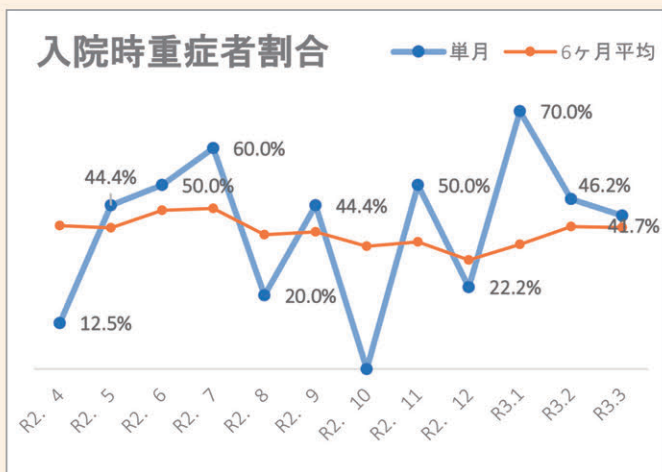
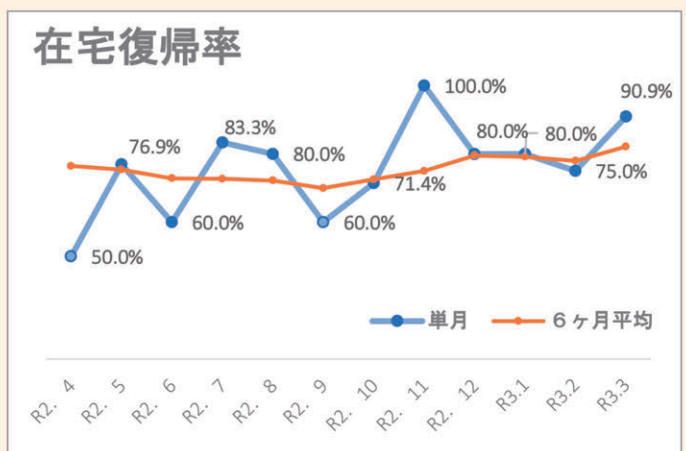
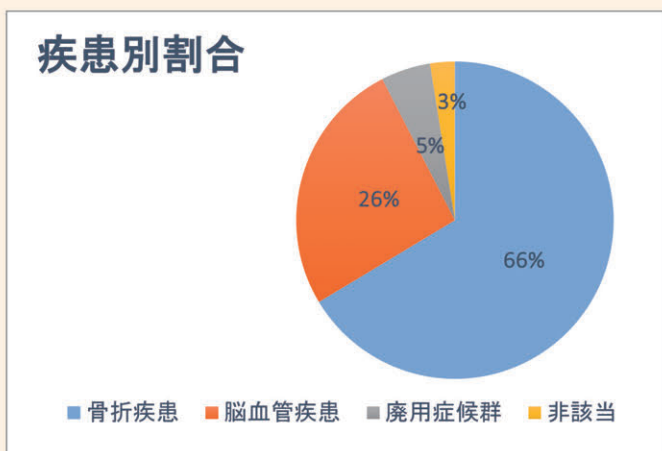
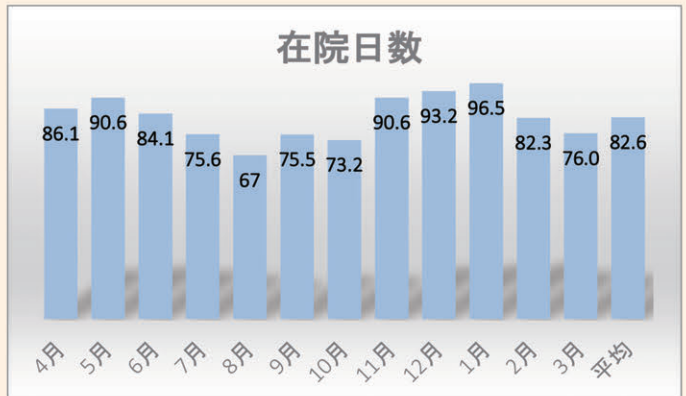
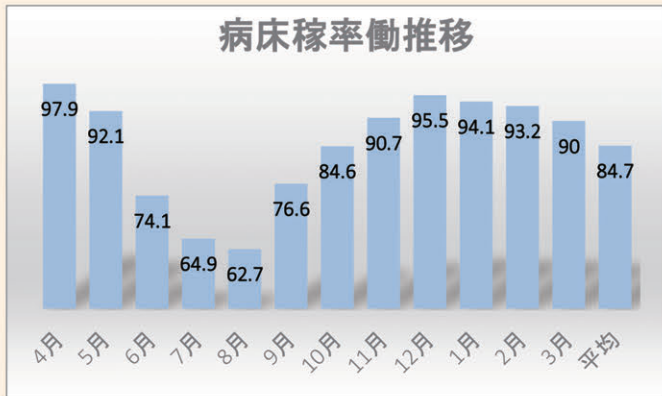
次回は、入院当日の関わり～入院中の地域連携室の業務について掲載させていただきたいと考えています。

〈入院相談窓口〉 悠紀会病院 地域連携室 連絡先:0968-74-1131 FAX:0968-74-3821

2020年度 診療実績報告

— 回復期リハビリテーション病棟 —

病床数：32床 入院料：回復期リハビリテーション病棟入院料4 ※全患者急性期病院からの紹介入院



外来診療担当医表

診療時間【午前9:00～午前12:00(受付午前11:30まで)、午後1:30～午後5:00(受付午後4:30まで)】

診療科	月	火	水	木	金
内科	紫藤 忠博	高木 和男	松村 利昭	高木 昭宏 紫藤 忠博	
循環器内科			古森 顕一		古森 顕一
リハビリテーション科		伊勢 紘平 (整形外科)			山崎 裕子
神経内科		井手 正美	井手 正美		

診療科

●内科 ●リハビリテーション科 ●循環器内科 ●神経内科 ●歯科(予約制)

相談、その他

● 外来・訪問リハビリテーション相談 ● 摂食嚥下相談 ● 整形外科相談

病棟構成

入院病床数 139床

回復期リハビリテーション病棟	32床
医療療養病棟	50床
介護療養型医療施設	57床

診療設備

マルチスライスCT撮影装置
X線テレビ装置
一般用X線装置
PACS(医用画像管理システム)
超音波診断装置
心電図モニター
生化学自動分析装置

関連事業所

- ◆訪問リハビリテーション 悠紀会病院
- ◆介護医療院 ゆうきの里
- ◆介護老人保健施設 ゆうきの里
ゆうきの里 通所リハビリテーション
介護相談センター ゆうきの里(居宅介護支援)
- ◆グループホーム ゆうきの家
- ◆小規模多機能ホーム ライフサポートいわさき
- ◆小規模多機能ホーム しいの木の里(山鹿市)
- ◆社会福祉法人ゆうき会
特別養護老人ホーム ケアタウン光の森(菊陽町)

アクセス



〒865-0011

熊本県玉名市上小田1063番地

TEL 0968-74-1131 FAX 0968-74-3821

ホームページ <http://www.yukikai.or.jp>



各種相談については、地域連携室へお尋ねください。

TEL 0968-74-1131

※お電話による問い合わせは、月曜日～金曜日の午前9時～午後5時までとなっております。